M. I. 英語英文学科・３年次

Ⅰ. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

中学生の頃、洋楽をきっかけに英語を学ぶ面白さを実感し、英語の学習教室に通うなどして英語に触れる機会を増やしていました。次第に“海外で生活してみたい！”“英語を本格的に学びたい！”という思いが芽生え、英文科のある高校に進学しました。高校１年生の３月にはオーストラリアでの３週間のホームステイと語学研修を経験し、日々の生活や現地の学生との交流を通して、英語でコミュニケーションをとれる喜びや、間違いを恐れず自分から発信する大切さを学びました。帰国後は、英語力を伸ばしながら海外の文化や歴史を学びたいと思い、英語英文学科に入学しました。留学への憧れを淡く抱いていたので、１回生の頃から TOEFL Camp や国際課のセミナーに参加し、留学制度や協定大学について調べていました。本格的に考え始めたのは２回生の秋です。AES コースで意識の高いクラスメイト達に刺激を受け、“今だからこそ出来ることにチャレンジしたい！英語力を最大限まで伸ばしたい！”と思いが高まり、一念発起して出願しました。カナダを選んだ理由は、治安の良さと世界各国から移民が集まる環境に魅力を感じたからです。また、カナダ出身の先生からよく話を聞いて身近に感じていたのも理由の１つです。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

１回生の冬に受験した IELTS で基準点を取得していたので、そのスコアを活用して出願しました。IELTS を選んだ理由は、TOEFL より試験時間が短く、試験官と１対１のスピーキングで評価していただける点が合っていると感じたからです。TOEFL Camp や IELTS 対策講座に参加して、テストの特徴や自分の適性、苦手分野の勉強方法などを教えていただいたことで、短期間で効率よく勉強でき、１回の受験で目標スコアを取得できました。TOEFL Camp に参加して、学科や学年を超えて留学を目指す仲間に出会えたことも励みになりました。また、大学で定期的に TOEIC などを受験する機会があったことや、少人数でネイティブの先生方との距離が近い AES コースの環境が留学への意識を高めてくれました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

オリエンテーションで、語学学校や大学の出願書類を配布され、協定留学生としての自覚が湧きました。テスト期間と並行して書類の提出や VISA の申請、航空券の手配を進めなければならなかったので、時間に追われて大変でした。１２月末に語学学校と大学からそれぞれ入学許可書が届いて一安心したのを覚えています。

手続きで最も苦労したのは VISA の申請です。代行業者に委託することも出来ましたが、こ

れも留学の経験の１つだ！と思い、自分で行いました。１月末に web サイトから申請し、約１週間後に結果が届きました。しかし！！VISA の有効期限が留学期間よりも短い１０月末で発行されるという問題が起こりました。同じ経験をされた先輩に相談し、問い合わせのメールを何度か送って数週間返答を待ちましたが解決せず、カナダに入国する際に移民局で審査官と交渉をして取得出来ました！（VISA はセキュリティーの関係上、有効期限が短く発行される人が稀にいるので、延長が必要な旨を審査官にしっかり伝えれば大丈夫だそうです！(^-^)）

留学までは、アルバイトに力を入れたり、友達と旅行やご飯を食べに行ったり、ライブに行ったりと、とにかく楽しみました！家族と過ごす時間も大切にしていました。英語学習は TED や単語帳を見る程度で続けていました。３月末にパッキングを始め、４月の初めに出国しました。

④ 現地到着後

一緒に留学する後輩２人と羽田空港で合流して、同じフライトで日本を出発しました。飛行機が遅れていたので予定より遅くトロントのピアソン空港に着きました。空港では現地のエージェントの日本人スタッフの方が出迎えてくださったので安心しました。その後オリエンテーションの書類を受け取り、ドライバーの方が各ホームステイ先へ送ってくださいました。ホストファミリーの家に到着したのは夜８時頃でしたが温かく迎えてもらい、長時間のフライトで疲れもあったのですぐ休ませてもらいました。トロントと日本では１２時間の時差があるため、３日ほどはなかなか寝付けず、日中に眠気に襲われるなど時差ボケに悩まされました。翌日には定期券の買い方、学校への行き方などをホストファミリーから教わり、１人で語学学校の下見に行きました。オリエンテーションでは、公共交通機関のしくみや危険なエリア、携帯電話の契約や銀行の口座開設についての話を聞き、疑問や不安に感じていることも日本人スタッフの方が親切に教えてくださいました。携帯電話は日本で使っていたスマートフォンを Wi-Fi 接続にして使用していました。語学学校やホームステイ先はもちろん、駅やモール、スタバなどのチェーン店では Wi-Fi 環境が充実していたため不自由なく使用できました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

語学研修先は Kaplan という語学学校のトロント校とバンクーバー校から選択できたので、一緒に留学する後輩たちと話し合ってトロントに決めました。カナダ留学を経験された先生からトロントの写真や話をよく見聞きしていたので、迷わずトロントを選びました。１月にリニューアルされたばかりの新しい校舎で、最寄りの Union 駅から徒歩５分の場所にあ

る高層ビルの２階に入っていました。昼休みになると生徒で賑わうラウンジや、授業やテストで使用するパソコンルーム、そして普段の授業が行われる１５室ほどの教室がありました。夏になると長期休暇を利用してくる生徒が増えるので、学校の隣にあるホテルの会議室が臨時の教室になることもありました。先生方は優しくて個性的な方が多く、授業以外でもすれ違ったら話しかけてくれるフレンドリーさが魅力でした。また、日本人スタッフの Saki さんが常駐されており、授業や日々の生活で困ったことがあると日本語 or 英語で対応していただけるので助かりました。学校が位置する Union は高層ビルが立ち並ぶ金融街で、慣れるまではその街並みに圧倒されていました。少し足を延ばすと、ショッピングモールや映画館、レストランが集まる繁華街や CN タワーなどの観光スポットも近いため、放課後に友達や後輩たちと観光したり、買い物に行ったりしていました。

◆ 授業内容、課題、試験

初日にレベルチェックテストを受験し、その結果をもとにレベル別に振り分けられました。最初の２か月は Intensive English を受講し、中学や高校で習う文法を中心に学習しました。毎回変わるテーマに沿ってペアやグループワーク、ディスカッションもあり楽しみながら学習できました。クラスは１５～２０人で先生との距離も近く、アットホームな雰囲気でした。ヨーロッパやスペイン語圏の独特ななまりが理解できず何度も聞き返したり、自分の発音が伝わらないことも多くて苦労しましたが、“何とかして伝えよう、理解しよう”とする姿勢を見せることで、次第にスムーズに意思疎通ができました。クラスメイトの年代も１０代～６０代と幅広く、思ったことをすぐ発言したり、どんな質問にも即座に意見を述べる姿に刺激され、積極的に発言するように心掛けていました。後半は午前中の Intensive English に加えて Academic Pathways を受講しました。エッセイの構成と応用、プレゼンテーションスキルを学び、課題も少し増えました。専門学校や大学進学、キャリアアップなど目的は様々でしたが、レベルの高い学生が集まっていました。このクラスはカリキュラムの変更に伴い、昨年の先輩方とは異なる授業形態や課題の量だったので色々と戸惑いましたが、エッセイの添削や個人面談など大学進学に向けて特別なサポートをしていただきました。大学進学レベルの C1 クラスに入ることが条件だったので後半は特に力を入れて勉強していました。C1 クラスではより複雑な文法や、政治や経済などの Academic なテーマが扱われ、専門知識が身に付きました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

トロントから小型の飛行機で３時間ほどの町にあります。大学のあるサックビルは最寄りのモンクトン空港から車で４０分ほどかかる小さな田舎町にあります。大学までの移動中

は、果てしなく続く並木道に挟まれた平坦な一本道に驚きました。モンクトンにはショッピングモールやレストラン、日本食を提供する居酒屋もあり、私は月に数回友人たちと訪れていました。大学は同女のキャンパスを感じさせるレンガ造りの建物が多く、徒歩１０分ほどで端から端まで移動できます。Wi-Fi 環境は整っていますが、地下や寮内では時々接続が悪い時もありました。多種多様なマシンを自由に使えるジムや、カフェ、ブックストアなどの施設も揃っており、普段は大学の敷地内で過ごしていました。少し足をのばすと、日用品が充実しているドラッグストアや、主要銀行、スーパーやレストラン(ちょっとした日本食や韓国料理)、カフェ、パブ、ギフトショップが集まった通りがありました。近くには広々とした湖がある自然公園があり、散歩や気晴らしによく訪れていました。一周すると手ごろな距離なので、運動にもオススメです！買い物や観光を満喫していたトロント生活と比べると何もないような第一印象を受けますが、こじんまりしたのびやかな雰囲気は勉強に集中できるいい環境でした。私はサックビルの極寒の寒さ(－２０℃以上と聞いていました)に耐えられるか不安でしたが、この年は稀にみる暖冬で１１月半ばまで積雪も少なく比較的耐えられました。しかし１０月半ばには次第に風も強くなって冷え込み(日本の１２月並み)、１１月になると朝晩は地面が凍って分厚いコートを着ていても身震いするほどになります！大学内は暖房設備が完備されており快適に生活できました。

◆　履修科目

帰国後を考えて４科目履修予定でしたが、実際に受講すると想像よりもしんどかったので、３科目履修で確実に単位を取ることにしました。

・SOCI 1001 Introduction to Sociology

興味のあった授業が履修停止されていたので Academic Coordinator の方に相談したところ“内容も似ている社会学を受講してみたら”と勧められ、せっかくの機会だから学んだことのない視野が広がる授業を履修しようと思って受講しました。貧困やジェンダー、犯罪や薬物といった社会的なトピックをカナダで起こっている社会問題やデータに基に考察していきました。カナダ社会についてほぼ知識がなかったので、教授や学生が知っている前提として話を進めていくので、理解するのに苦労しました。

・MUSC 2001 Introduction to Music

吹奏楽部に所属していたこともあり、音楽関係の科目に親しみを感じて受講しました。ルネサンスやバロックなど時代ごとにみられる音楽の特徴や代表曲、作曲家などを時代背景や歴史とともに学びました。毎回授業終わりに私と後輩に話しかけてくださる教授のフレンドリーな人柄が大好きで、３科目の中では息抜きとして楽しみながら受講できました。

・LING 2001 Introduction to the Study of Language

言語学には興味を持っていたため、留学前から履修したいと思っていました。英語の文の成り立ち、音の種類や発音方法、発音記号の読み方、英語と他言語の違いや特徴、言語が習得される過程など幅広く学びました。初めはカナダ式の発音記号や見慣れない語彙が多くてとにかく暗記することが多かったですが、知っている単語や知識が増えていくのが楽しいと実感できた授業でした。

◆　授業、レポート、定期試験

・SOCI 1001 Introduction to Sociology

１５０人程の PowerPoint を使った講義と、少人数でのディスカッション後に全体で意見を共有する２０人程のラボで構成される、週２回８０分授業でした。上回生が受け持つラボは、講義内容の振り返りや自分にはない考えを知ることができて有意義でした。決められた社会問題に対して、①現状（数字のデータや教科書の内容）、②根本となる原因、③社会への影響、④解決策の提案、⑤自身の意見 の５点と、教科書と講義で使用したビデオからの引用を必ず！含めて書くエッセイで評価されました。昨年と大きく変わって、中間試験や期末試験はなく、『５回書く２０００字のエッセイで良かった４回の評価＝成績の９割を占める』という大変厳しい評価方法でした。留学生であっても PowerPoint を配布するなどの優遇はしないという教授だったので授業中はメモを取るのに必死でした。そのハードさを理由に Drop する学生が多くて受講を迷いましたが、“この授業で単位を取ったらきっと今後の糧になる！”と思い覚悟しました。３冊ある分厚い教科書から利用できるデータを探すだけで大変でしたが、既定のエッセイの型に沿っているかも評価されたため、毎回時間と気力の戦いで締め切り間近に提出することもしばしばでした。しかし、writing center の方に細かく添削して頂いたり、教授にアドバイスを頂いた結果、一時は D や F 評価でしたが最後には B 評価を頂けました。後輩と受講していたので、情報を共有したり励ましあえたのが大きかったです。

・MUSC 2001 Introduction to Music

PowerPoint を使った６０人程の講義形式で週３回５０分授業でした。授業のメインは、音楽を構成する要素（リズムやハーモニー、歌詞との関係）を学び、様々な時代を代表する音楽を聴いてそれに基づいて分析をするという内容でした。教授の知り合いのプロの演奏家による生演奏を聴いたり、早朝や深夜に実際に外で耳を澄ませて聞こえた音の特徴についてレポートを書くなどユニークな回もありました。課題は、配布される曲のリストから数曲選んで音楽を構成する要素をまとめるレポートが４回、好きな曲を選び同様の分析をする Individual Project、演奏会に出席して書く Live Performance Review がありました。試験は、曲を聴いて曲名や作曲名を記述する２回の小テスト、指定された１０曲中５曲をその場

で聞いて分析する中間試験、総まとめとして時代背景や代表曲まで幅広く問われる最終試験がありました。試験は記述形式でしたが、教授がとにかく優しい方で、常に高い評価をくださいました。モーツァルトやベートーベン、大好きなミュージカルの曲や、世界の音楽など知っている曲も多く楽しんで学んでいました。

・LING 2001 Introduction to the Study of Language

PowerPoint を使った講義形式の週２回８０分授業でした。内容を大まかにまとめたノートを事前に Web 上にアップして頂けたので、毎回印刷して予習してから授業で使用していました。とにかく話すスピードが速く、話しながらスライドを変えていく教授だったので、ノートに補足の説明や例を付け足す程度で講義に集中できたのは有難かったです。英語の文の成り立ちについて学んだ際は、名詞や形容詞の種類など基本的な内容も多かったですが、文法を苦手とする学生はネイティブでも多いようで頻繁に手を挙げて質問する学生が多くいました。ディスカッションをしたり、練習問題を解いたりもしました。授業前に指定された教科書の範囲を読むぐらいで日ごろの課題はありませんでした。試験は記述式と選択形式の問題が混ざった２回の中間試験と、期末試験がありました。文章の間違い箇所を指摘し、何が間違っているのか論じる問題はなかなか点数が取れず難しかったですが、それ以外はしっかり暗記して内容を理解できていれば点数が取れました。期末試験と並行して、これまでの自分自身の語学学習の経験と授業で得た知識を結び付けて A4 で６～８枚分書くエッセイがありました。構成を決めるまではしんどかったですが、特に指定条件がなかったので書きやすかったです。

⑦　クラブ、課外活動、ボランティア活動

語学学校では、毎日レベル別に Writing やグループに分かれてディスカッションする Speaking などが無料で開講されていたのでよく参加していました。ほかのクラスの人とも仲良くなれたので楽しかったです。放課後には希望者参加のアクティビティー(カフェに行ったり、ダンスパーティーやトロント散策、季節に合わせたイベント等)によく参加していました。後輩と３人でトロント大学の日本人学生主催の Language Exchange にも参加していました。長期休暇には、自分で見つけた１日単位のボランティア活動(町内イベントや障害物マラソンなど)に、運営スタッフとして携わりました。大学では、国際問題についての意見交換や国際交流のイベントを主催する MOSAIC というサークルに参加していました。勉強に余裕がなくて、ただイベントやミーティングに参加する程度でした。あとは、Mentorship Program を利用していました。趣味や興味が似ている先輩とペアを組み、大学内の希望制のイベントに参加したり、定期的にご飯に行って話したりして留学生の生活をサポートしてくれる制度です。私のメンターは中国人の同い年の女の子で、その子の家で毎

週行われる飲み会を通してアジア系の友達が増えました！ イベントには「赤毛のアン」の舞台となったことで有名な Prince Edward Island 観光や、アップルピッキング、トロント＆ニューヨークツアーなどがありました。

⑧　現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

ホストファミリーはペットや子供の有無の希望を考慮して、エージェントが決めたご家庭に滞在しました。私は滞在中にホストファミリーの変更がありました。空港に到着してすぐ、“ホストマザーが手術をされることになったので、５月からホストファミリーが変わります！”と告げられ衝撃的でした。最初のお宅はインド系移民のホストマザーと１４歳の娘、そしてトイプードルの３人家族でした。学校にはバスと２回の電車の乗り継ぎで計１時間ほどのトロント郊外にあるお家でした。同い年の日本人の女の子が滞在していました。ホストマザーは体調不良が続いていたにも関わらず、毎日簡単な朝ごはんとお弁当を作ってくれる親切な方でした。晩ごはんはできる限り全員で食べる決まりで、学校であったことなどをよく話していました。次のホストファミリーは都会にある豪華なコンドミニアムにお住いの、台湾人のご主人と日本人の奥さんの 60 代のご夫婦でした。部屋に専用の冷蔵庫や大きな鏡や窓があるステキなお部屋を頂きました。困った時には日本語で対応してもらいましたが、普段は極力英語で話して頂けるようにお願いしていました。一番嬉しかったのは料理上手なお２人の作るアジア料理を毎晩食べられたことです！もう１人の日本人女性ともよく一緒に遊びに行っていました。施設内のジムやプールも自由に使えて、駅からも近く通学時間も少し短縮されました。日本人向けの情報をいち早く教えて頂いたり、娘さんご夫婦やお孫さんが遊びに来られることもあったので楽しく快適に過ごせました。

大学では寮生活で、夏頃に履修登録と寮の申し込みをしました。食堂に近い３つの大規模な寮のどれかを希望していましたが、２人部屋が定員オーバーということもあって食堂から徒歩１０分の場所にある３階建ての Bennett という寮に入りました。Bennett は１００人ほどが住むアットホームな雰囲気の寮でした。お風呂やトイレは１フロアに複数あり男女で共有していました。最初は身動きがあまりとれない狭いシャワーや（１つだけバスタブ付きの広めのシャワーがあり人気でした！）、男女で共有することに抵抗があったのですがすぐに慣れました（笑）私は１階のダブルルームで、ルームメイトはカナダ人の１回生の女の子でした。部屋には机とベッド収納スペースや共用の冷蔵庫がありました。ルームメイトは早寝早起きの規則正しい生活を送っていたので、相性がよかったです。マウントアリソン大学は関西学院大学から毎学期 MASSIE という２０人ほどの語学研修生のグループを受け入れており、Bennett にも７人ほど滞在していたのでよく一緒に部屋で遊んだりお互いの相談にのったり休暇には一緒に旅行に行ったりして仲良くしていました。関学からは同じ正

規留学生の男の子もきていたのでよく話したり情報交換をしたりしていました。

⑨　長期休暇の過ごし方

７月末に語学学校を卒業したので、８月はほぼ休みでした。トロントからバスで３時間ほどの小さい町で ONE OK ROCK のライブが行われると聞きつけ、バスとチケットを手配して日本人４人で参戦しました！日本ではありえないほど近い距離で見ることができて興奮しました！！後輩と２人で行った３泊４日の NY 旅行では、夜行バスでの１２時間の旅を経て到着後、タイムズスクエア近くのホテルに滞在して観光や買い物を思いっきり楽しみました！！ロックフェラーセンターからの素晴らしい夜景や、夜のタイムズスクエアは圧巻でした。ステーキやロブスター、ベーグルなどとにかく食べまくりました（笑）　しかし！！滞在２日目にカバンに入れていたスマホが盗難にあいました。地下鉄での移動中、どこですられたのか分かりませんが、気が付くとカバンのチャックが開いていてスマホが見当たりませんでした。すぐ日本の両親やホストファミリーに連絡を取り、夜中にニューヨーク市の警察に行って盗難届を記入するなど出来るだけの事をしました。カナダに帰国後レンタル携帯会社で初期費用が無料のスマホを４か月間レンタルして大学生活に備えました。他には、ケベックやオタワなどを回る２泊３日のツアーに参加したりナイアガラの滝を訪れたりトロント観光をしたり友人とご飯に行ったりしました。

大学では１１月に１週間ほど休暇があり、MASSIE と１０人ほどで隣町のモンクトンに旅行して自然の中でのアスレチック体験や日本料理店に行ったりしました。また、同女の後輩２人と２回目の NY 旅行にも行きました。今度はトロントから飛行機を利用したり、Wi-fi のルーターを契約したり、１ランク上のホテルに泊まったりして少し豪華な旅になりました。夏は観光メインだったので、今回は美食巡りやショッピングに時間を費やしました。いい気分転換になりました！

⑩　留学期間中の就職活動の取り組み

最初は不安だったので就活サイトに登録したり、家族や友人に様子を聞いていましたが、逆に何通も届くメールにストレスを感じたのでほとんど何もしませんでした。ただ、ボストンキャリアフォーラムというイベントに参加して内定を取ったマウントアリソンの日本人学生の方に話を聞いたりはしていました。授業の課題に追われていたので正直就活のことまで手が回りませんでした。今就活をしていますが、帰国してからでもじゅうぶん間に合います！！！

Ⅱ．留学の感想

①　留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

語学学校で生まれ育った環境や文化、言語が全く違う友達がたくさんできたことです。英語で自己紹介することから始め、一から関係を築くのは本当に難しいことでしたが、韓国人の女の子と恋バナをするほど仲良くなったり、お互いの国の言葉を教えあったりして仲良くなれたのは語学学校で学ぶメリットの１つだと思います。また、ニューヨークやモントリオール、ケベック、オタワ、ナイアガラの滝、「赤毛のアン」が大好きなのでマウントアリソン大学に留学するなら何としてでも訪れたかったプリンスエドワード島、トロント、サックビルなどいろいろな場所を訪れることができたのがすごく楽しかったです。今まで関西にしか住んだことがなかったので、１年間でこんなにたくさんの場所を訪れることが出来て良かったです！ また、大学の試験が終わり日本に帰る前にトロントに４日間滞在して、ホストファミリーや大好きな語学学校の先生、そして会いたかった友達に再会できたことが嬉しかったです。スケートやクリスマスマーケットに行ったり冬のトロントを満喫しました！

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

自分の言いたいことがうまく言えないときは辛かったです。語学学校ではみな英語は第二言語という同じ立場だったので、お互いに理解しよう伝えようという姿勢があったのですが、大学では私たちが日本語を話す感覚でみなが話すので会話を聞き取ることすらままならないこともありました。授業を聞いていても分からない、質問しようにも何が分からないのか分からないといった感じで最初の１か月は苦労しました。語学学校での自分と比べて何でうまく話せないのだろうと悩みましたが、マウントアリソンに２５人ほどいる正規の日本人学生と仲良くなり悩みを聞いてもらったり、同じ授業を受講している人とは一緒に勉強したりアドバイスをもらっていました。余裕を持って始めても提出締め切りギリギリまで図書室にこもって夜中までエッセイを書くことや、一晩中徹夜することもあり自分が情けなく鬱になっていました。そんな時は日本の家族やトロントの友達とテレビ電話をしたり、日本人同士、留学生同士で励ましあったりして気持ちを奮い立たせて乗り越えました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

カナダに来て一番驚いたことはフレンドリーな人が多く、道に迷ったり機械の使い方が分からないような素振りをしているだけで話しかけて助けてくれたり、乗客と運転手が雑談をしているのを見たときは公共交通機関では静かにすることがよいマナーとされる日本と比べて驚きました。トロントには駅や通りにコップを差し出して寄付を求めるホームレスの人が多く、最初は怖いと感じていましたが次第に慣れました。サックビルは“すれ違う人はみな知り合い”なのだと感じるように、街を歩いているだけで挨拶しあったりしたのでいいなと思いました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①　留学先大学の良かった点、悪かった点

ほぼ大学内の施設を使って生活できること、そして大学のサポートが手厚く相談に親身にのってくれたり留学生の悩みをよく理解してくれている点です。悪かった点は、とにかく田舎ということもあって生活雑貨以外を買いに行きたいときはバスで往復３０ドル(タクシーだと６０ドル)で２時間弱かかるモンクトンまでいかなければなりませんでした。また、私は日本から持ってきた服が日ごろの洗濯と乾燥機のせいもあって縮んでしまったり、防寒グッズが途中で必要になったので買い足しに行ったりしました。また、地元の学生のコミュニティーには言葉の壁もあって入りづらかったので、寮では仲の良かったオランダからの留学生とほぼ毎日行動していました。友達づくりに苦労しました。また、MASSIE や日本人学生が多いので日本人がいないことを期待して行かれると驚くかもしれません。

②　日本から持っていって、特に役に立ったもの

ノートパソコンとクレジットカードは必須です。現金を出すと嫌がられることもあるほどカード社会のカナダでは重宝しました。語学学校や大学にも共用のパソコンはありますが、数が限られる上に日本語入力はできないので、自分専用のものが絶対必要です。冬用の防寒対策のコートはカナダで買うほうがより現地の寒さに適しておりセールで安く買うことができるので日本から持ってくる必要はないと思います。日用品も同じです。私は、生理用品やアレルギーの薬などは持参しました。化粧品も日本のブランド物は高いので使い慣れているほうが良ければ持参したほうがいいです。また、食堂のご飯は初めはバイキング形式で物珍しく楽しいですが、特に土日の朝ごはんはベーグルとジャムやヨーグルトしかないような感じなので日本食が少しあるといいと思います。私はストレスでしんどいと電話で家族に告げたら、段ボール一杯にインスタント麺やみそ汁お菓子の詰め合わせを送ってくれたのでとてもありがたく感じました。普段食べている何気ない日本食の良さが身に染みてわかります。また、アメリカに旅行するならアメリカドルも事前に用意しておくとカードが使えない店でも対応できるのでお勧めです。大学ではフォーマルな衣装(ドレスコード)が求められることがあるのでワンピースなど１着用意するといいです。現地ではなかなか私に合うサイズがなく探すのに苦労しました。

③　語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

スピーキングやリスニング力が向上したのは実感します。今まではある程度頭で言いたいことを考えて文として組み立てて話していましたが、友達と何気なく話す雑談や日常会話なら構えずに違和感がないスピードで話せるようになりました。リスニング力に関しては、

相手の言っていることはほとんど聞き取って理解できるようになりました。映画を観るときも字幕なしで理解できたり、ふと流れたニュースでの議員の演説や俳優へのインタビューなどが即座に理解できるようになりました。留学中は旅行の手続きやレストランの予約、そして事件や事故にあった時の対応もすべて英語なので膨大な量の英語を読む機会も多く抵抗がなくなりました。先日受けた TOEIC では目標としていた９００点台を取ることができ、さらに成果を実感できました！また、以前より初対面の人と話すことが得意になった気がします。語学学校ではせっかく仲良くなっても、クラス変更や卒業などで友達の移り変わりが頻繁にあったので、短期間で人と仲良くなることが求められることが多かったです。また、紆余曲折しながらも留学を乗り越えて単位も取得できたという自信がついたので、ポジティブに考えられるようになりました。

④　これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は本っっっ当に優柔不断で、協定留学への出願も締め切り３日前ぐらいまでどうしよう…と悩んでいました。出願可能なスコアを持っていましたが、就活や単位を気にしてなかなか一歩が踏み出せず、留学に意欲的な友人に押され気味でした。しかし、１年間私を指導してくださった AES の先生や以前からお世話になっていた国際課の方、そして何より家族の応援してくれる声に背中を押してもらい、留学に踏み出すことが出来ました。また、先輩の体験記を読んでいると“迷っているなら一歩踏み出してみて”と書かれている方が多く、やらない後悔よりやって後悔したほうがいいと思えたことも大きかったです。９か月も家族や友人と離れて生活することに不安を感じ、留学中も夜になると泣いてしまったりすることもありました。VISA の申請、ホストファミリーの変更、スマホの盗難、パソコンを紛失しかけるなど人より何倍も波瀾万丈な留学生活になりました。しかし、日本で過ごしていた１年とカナダで大きな壁を乗り越えながら成長する日々を過ごした１年を想像すると、今ではあの時逃げなかった自分をほめてあげたいほど本当に貴重な経験をさせて頂きました。トロントに、マウントアリソン大学に行かなければ知らなかった景色、出会えなかった人がたくさんいます。もし留学に行きたい思いがほんの少しでもあり、周りの理解や協力を得られるのであれば絶対チャレンジしてください！こんな波乱万丈な留学生活を送った私が保証します！！！(^▽^)/

Ⅳ．将来の目標

①　今後の進路、将来の目標・夢

帰国後にまずキャリア支援部に行き、状況を説明して今何をすべきかアドバイスを頂きました。気になる企業のインターンに参加したり、大学の就活講座や留学の振り返りを通して

自己分析を考えたりしていました。今は就活も解禁されたので、学内の企業セミナーに参加して英語を使える職種や海外に展開されている企業を中心にみています。就活は人それぞれなので、焦らず自分のペースを心がけようと思います。英語力を生かして貿易事務や海外営業の事務として働くことが今の夢です。また、トロントで出会ったエージェントの日本人スタッフの方から話を聞き、留学コーディネーターの仕事にも興味を持っています。カナダ留学を通して出会った友人とはこれからもつながっていけたらいいなと思います。

Ｖ．写真

語学学校での最初のクラスです！メキシコ、ブラジル、韓国、スペイン、コロンビア、サウジアラビア、フランスなど世界各国からのクラスメイトに出会えました！

最初のホストファミリーです！１２月に再会した際はお元気になられていて安心しました。一緒に晩ごはんを食べました！

Bennett に住む女の子たちと撮りました！私がどこにいるかは一目瞭然なのですが(笑)、全員が１回生や２回生の年下と知り驚きました！

大学で Bennett のハウスメイトたちと撮った１枚です！新入生歓迎のイベント前なのでみんな寮の T シャツを着ています！

同女の後輩２人と行ったニューヨークのタイムズスクエアです！とにかく人が多く夜もきらびやかでした！！

Ｙ．Ａ．英語英文学科・２年次

Ｉ．留学レポート

① 協定留学を目指した理由

留学は英語を学び始めた小学生の頃からの私の夢だったので、入学前から大学在学中に留学することは決めていました。協定留学は留学先大学の学費を同女が負担してくれるのと休学しなくていいので４年で卒業できるという利点があります。この２つの利点が協定留学を目指す決め手でした。協定留学制度を利用できる生徒の数は年間２０人と決まっているので、２年次での留学は難しいかなと正直自信をなくしたこともありましたが、諦めずトライしてよかったと思っています。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

協定留学に出願するにあたって TOEFL や IELTS の受験は必須ですが、私はそれまで受けたことがなかったので対策の仕方が分かりませんでした。そこで１年次生の春学期と秋学期に TOEFL・IELTS　初級Ⅰ、Ⅱの授業を受講しました。さらに夏季休暇の間に参加した TOEFL キャンプでは IELTS を含めたリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングすべての勉強方法をしっかり学ぶことができました。そこでできたモチベーションの高い友達とはキャンプの後も交流が続き刺激し合えたと思います。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後は学校の課題に加えて必要な書類を用意するのやビザ申請や航空券の手配などで忙しかったので、特にこれといった語学勉強はしていませんでした。ビザの取得は業者に委託することもできるのですが、高くつくので分からないことはネットで調べて自分で申請しました。私の場合ビザ申請後１週間も経たない内に発行されましたが、場合によってはとても時間が掛かることもあるので早めに取り組むことをお勧めします。

④ 現地到着後

トロント・ピアソン空港に到着すると日本人のエージェントの方が迎えて下さりホームステイ先まで車で送ってくださいました。土曜日に到着し月曜日から語学学校に通いました。月曜日には語学学校でレベルチェックテストとオリエンテーションを受けました。学校が終わった後、エージェントのオフィスでメトロパスやトロントの危険地域についてのオリエンテーションを受けました。分からないことや心配なことは日本語でエージェントの方に質問できたので心強かったです。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

語学学校はトロントの中心地にありました。学校にはコンピューター室を始め、自販機や電子レンジ、冷蔵庫まで揃っていたのでとても快適でした。

◆　授業内容、課題、試験

最初の２コマの授業はレベル別のクラスに分かれてリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングすべての技能を総合的に伸ばすカリキュラムでした。それが終わると自ら選ぶことが可能なスキルクラスという何かに特化した授業を受けます。テストは１０週間に一度レベルチェックテストというものがありました。前年まであった UFC という大学準備コースがなくなってしまいアカデミックスキルを学ぶスキルクラスで大学準備をしていたのですが、それでは不十分だったので、アカデミックコーディネーターの方と独自のカリキュラムを組んで週に一度個人的に出してもらう課題をみてもらっていました。

⑥　正規科目履修期間

◆　大学の施設・環境について

マウントアリソン大学（以下 MtA）はサックビルという自然豊かな小さい田舎町にありました。一番近いショッピングセンターまではバスに乗って３０分ほどでした。サックビルはとても静かで遊ぶ場所もほとんどないので勉強に集中できる環境だったと思います。Student Centre の中にはジムがあり時々気分転換に使っていました。

◆　履修科目

・SOCI 1001: Introduction to Sociology

社会学は留学前から取りたいと思っていたので履修しました。この授業では貧困、薬物、人種差別のような社会問題を扱います。レポートにかなりの時間が掛かるのでとても苦労した科目でした。

・CANA 1011: Representing Canada: An Introduction to Canadian Culture

せっかくカナダに留学に来たのでカナダについて勉強したいと思い履修した科目です。カナダの先住民の問題や文化、歴史について学びました。テストは中間テストと期末テストの２回でした。

・HIST 1681: The Uses and Abuses of History

もともと歴史が好きで選んだ授業で、カナダの歴史を学ぶのではなく人はどうして歴史を学ぶのか、どのようにして受け継がれているのかが授業のテーマでした。先生はとても親切な方で、レポートで何を書けばいいか分からなかったときは、アドバイスをしてくれたりと留学生の私に親身に接して下さいました。

◆　授業、レポート、定期試験

履修科目は８月ごろに登録したのですが人気の授業はすでに埋まっていて wait list に登録

しました。後から MtA で出会った日本人の方に聞いたのですが wait list が十数人だと１回目の授業でキャンセルする生徒がほとんどの授業で出るので登録することができるし、先生によっては掛け合えば登録できるように計らってくれる先生もいると聞きました。実際私も最終的に取りたかった３つの授業全てが wait list 待ちだったのですが２つは１回目の授業後空きが出たので登録することができ、もう１つの授業は先生が wait list 待ちの生徒が少なかったので全員入れてくれました。先生に確認を取って許可してもらった授業では録音をし、授業のスライドを上げてくれる授業ではそれを使って勉強しました。チュートリアルは発言が求められる授業なのでとても緊張しましたし苦労しました。特に CANA1001 のチュートリアルでは生徒主体でクラスを進めるので自分が現地の生徒と司会をしなければいけなかった回は正直とてもつらかったです。

・SOCI 1001: Introduction to Sociology

授業は週に１回の講義と少人数のクラスで受けるチュートリアルで、テストがないかわりに２０００字のレポートの提出が５回ありました。成績は評価がいい４つの２０００字レポートと任意で出す１０００字のレポートで決まりました。

・CANA 1011: Representing Canada: An Introduction to Canadian Culture

この授業も週に１回の講義と少人数のチュートリアルのクラスで構成されていました。課題は毎週与えられる２０ページ程度のリーディングをして、それに関する先生からの問いに Response paper を書いていました。それに学期に２回 Cultural Event に参加しレポートを二度提出しました。テストは中間、期末の２回で中間テストでは授業で習った単語の定義を書く問題７つくらいが出題され期末では一問一答形式の問題と論述問題がありました。

・HIST 1681: The Uses and Abuses of History

授業は週に２回で成績の評価は３回のレポート提出と図書館の使い方に関するエクササイズ、中間、期末の２回のテスト、４つのネットで行ったミニクイズで決まりました。レポートは３回だけだったのですが中間、期末の両テストとも非常に難しく MtA で出会った日本人の先輩と夜中の３時まで一緒に勉強しました。哲学的な部分もあったりして授業内容を理解するのに相当苦労した科目でした。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

最初の頃は何かクラブに参加しようと思っていたのですが、課題でとにかく忙しかったのでクラブには参加していませんでした。学校が始まってすぐにあった募金活動のボランティアには参加しました。今までそういったボランティアをしたことがなかったのでとてもいい経験ができたと思っています。ネイティブスピーカーの友達と仲良くなれたきっかけでもあったので、勉強も大事ですが積極的に行事ごとに参加するのもいいと思います。

⑧　現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

語学学校に通っていた４か月の間と長期休みの１か月間はホームステイをしていました。ホストファミリーは２匹の猫を飼っている５０代のご夫婦でした。娘として接してくれるほど可愛がってもらいました。大学でのプログラムが終わってから日本に帰国するまで少し日があったのですがその間もお家に泊めてくれました。帰国した今でも連絡を取り合っています。ホストファミリーはカナディアンだったのでご飯は洋風のものが多く、料理好きの家庭だったので持って行った日本食の出番がほとんどありませんでした。家から語学学校、ダウンタウンまではバスと電車を乗り継いで１時間程度でした。

大学の寮はホームページからそれぞれの寮がどのようなのかを調べて７月の末に第一希望から第三希望までを出しました。結果は第二希望の Campbell Hall という比較的新しくきれいな寮で、シャワーとトイレが各部屋についており寮からはどの校舎もミールホールも歩いてすぐの距離でした。寮を仕切る Executive メンバーや Room Assistant のみんながとても親切でした。先輩によると、どの寮がいいのかは Executive や Room Assistant によるらしいので毎年変わるようです。

⑨ 長期休暇の過ごし方

長期休暇はホストファミリーのお家にステイしながらいろいろな場所に旅行しました。日本から来てくれた母と従妹家族とニューヨークを旅行したり、同女から一緒に留学に来ていた友達とケベック州やナイアガラの滝に行ったりもしました。

⑩　留学期間中の就職活動の取り組み

２年次生での留学だったので就活はしていなかったのですが、この留学経験がどのように就活に生きるかを常に考えるようにしていました。

Ⅱ．留学の感想

①　留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

向こうで知り合った母国語が日本語でない友達と出掛けたり話をするのは新鮮で楽しかったです。知らなかった文化を知れたり新しい考え方に気づいたりするからです。

思い出に残っていることは寮を出る１週間に Executive メンバーと Room Assistants のみんなが送別会を開いてくれました。会の終わりにはサプライズで私ともう１人の同女からの留学生にみんなからのメッセージが詰まったメッセージボトルをプレゼントしてくれてとても嬉しかったです。Campbell で過ごしたのはたったの４か月間でしたが Campbell に来て良かったと思うことがたくさんありました。

その年のクリスマスも思い出に残っています。私はトロントのホストファミリーと過ごし

たのですが、家族の暖かみを感じた２日間でした。ツリー用の木を買いに行って飾り付けしたり、家に２０人ほどのゲストが来てクリスマスパーティーをしたりと貴重な経験ができたと思います。

②　留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学中つらかったことは９か月間家族に会えなかったことです。これ程長い期間家を離れたことがなかったので寂しかったこともありましたが LINE を使って連絡を取って気を紛らわせていました。家族のありがたみや家族が自分にとってどれほど大きな存在かを実感した９か月間でした。

最も苦労したことは周りのカナディアンと同じように大学の授業についていきながら膨大な量の課題とレベルの高いテストをこなしていくことでした。毎日寝る時間が３時、４時が当たり前だったこともありましたし単位が取得できるか不安になったこともありました。しかしそれらを通して大きな自信を得ることができたと思います。

③　文化・習慣の違いなどで驚いたこと

私が文化や習慣に関して驚いたことは、いつでもどこでも挨拶をするということです。例えばレジにいる人にも How are you?　How's it going? などと聞かれたり廊下で会った友達にも言われたりします。私はこういった挨拶に対してスムーズに返せるようになるのにも時間が掛かりました。

またイースターやサンクスギビングを盛大にお祝いすることは初めてだったので体験できてよかったです。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①　留学先大学の良かった点、悪かった点

MtA には日本からだけではなくたくさんの国からの留学生を受け入れているので留学生にやさしい大学だったと思います。例えば希望する留学生と現地の学生が２人一組になって交流を深めるというメンターシッププログラムがありました。このプログラムを通して様々なイベントに参加したりバスで赤毛のアンの舞台であるプリンスエドワード島に遊びに行ったりしました。メンターとは今でも連絡を取り合っていて、今年彼女が香港の大学に留学するので会う約束もしています。悪い点はミールホールのご飯があまりおいしくないことぐらいだと思います。

②　日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンは語学学校にも大学にもありますが、軽くて持ち運びやすい自らのパソコンを持って行くのが無難だと思います。他には除菌シート、ポケットティッシュ、レトルトの日本

食が役に立ったのでオススメです。また大学ではパーティーや正装する機会があるのでキレイめの服を一式持って行っておくのがいいと思います。

③　語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力とスピーキング力は特に伸びたと思います。帰国後にお気に入りの海外ドラマを字幕で見ていて内容を掴めるようになっていて驚きました。スピーキング力に関しては、バイト先で少し英語を使う機会があるのですがスムーズに言いたいことが出てくるようになったと思います。

④　これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私はこの留学を経て思ってもみなかった自分の中での変化やずっと大切にしたい出逢いがありました。枠が少ないので協定留学制度を利用しての留学は難しいですし留学中大変なこともたくさんあります。しかし私はそれだけしんどい思いをしても行く価値が留学にはあると思うので、留学に興味がある人には TOEFL キャンプのような機会をフルに活用して協定の枠を勝ち取ってほしいと思います。

Ⅳ．将来の目標

①　今後の進路、将来の目標・夢

まだ将来の夢ははっきりと決まっていませんが、英語を使う職業に就くか、いつか海外勤務ができたらと考えています。就活までは時間があるのでこれからも英語力を伸ばしていきたいです。

Ⅴ．写真

語学学校のクラスメイトと先生で外に出掛けたときの写真です。このクラスはレベルが高かったのでついていくのが必死でしたし受ける刺激も多かったです。

クリスマスバンケット直前に 3rd Floor に住んでいた生徒で撮った写真です。

ホストファミリーの家族や知り合いがお家に来てクリスマスパーティーをした時の写真です。とても賑やかで楽しかったです。

M. S. 英語英文学科・２年次

Ⅰ. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は、大学に入学前から留学したいと思っていて、いざ入学した時にまず国際課を訪ねました。そこで、いくつか種類があることを知り、悩みました。この協定留学は、実際に海外の大学で現地の学生と一緒に授業を受け、単位を取得する、という大変貴重であり、なかなかできない経験であると感じ、出願することを決めました。英語のみの環境に身を置くことが英語力を高めるのには一番の近道であることや、今ある環境を大きく変えることで自分を変えたいということが大きな出願を決めた要因でもあります。また、この春スタート留学は、語学学校で Academic な知識を得たあとに実際に大学に移動して授業を受けることができます。語学学校では、大学とはまた違って、世界各国から学生が集まるので、世界中に友達ができることもこの留学の魅力です。２年次で留学を決めた理由は、私は３年生の間で、日本でしっかりインターンや説明会に参加して就職活動に備えたいという思いや、早く留学して自分の視野をしっかり広げておきたいと思いがあり、出願しました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

まずはとにかく TOEFL-ITP で基準を満たすために､隙間時間を利用して単語量を増やし、文法問題を何度も練習して、速度を上げて解く練習をしました。とにかく長文も練習しながら自分の解き方を身につけるしかない、と思い、空いている時間を見つけては長文を読むようにしていました。また、Listening 対策のために NHK の英語教材を利用して耳を慣らしました。私は TOEFL-iBT で出願したのですが、あまり思ったよりも点数が出ませんでした。というのも、コンピュータに向かって話すということにあまり慣れておらず、長時間でありとにかく慣れていませんでした。なので、出願を考えている皆さんはきっちりパソコンを利用した練習、シミュレーションを行ってから受験することをおすすめします。

③ 留学決定から出発までの準備期間

まず VISA の申請で苦労しました。私は自分で代理店に頼まずに申請することに決めました。しかし acceptance letter が大学から送られてきた後も、そんなに時間はかからないだろうと忙しかったこともありしばらく放置していました。そうしているうちに年が明けてしまいました。申請にはたくさんの種類の書類を集めなければいけなかったので時間も手間もかかりました。また、人によって申請から受理までにかかる期間は違うので早めに申請しておくことをおすすめします。英語に関して、私は行ってから向こうに行くことで上達するものだと思い、何もしませんでした。しかし、留学に行ってみて自分の英語力のなさには

本当に情けなく、こんなに苦労するものだと思い知らされました。行く前の春休みにもう少し writing、reading の練習を進めておくべきであり、もっと向こうの大学で学びを深めることができたのでは、と少し後悔してます。留学に行かれる皆さんは少しでも日本でできることをしておく方がもっと英語を”使う”場が増えると思います。

④　現地到着後

到着後すぐに向こうのエージェンシーの方が空港で出迎えてくださいました。空港から車でそのままホームステイ先に向かい、ホストファミリーと対面しました。とても暖かく迎えてくださいました。「Feel at home!」がママの口癖です。土曜日に到着し、月曜日から学校が始まったのですが、その月曜日にエージェンシーでオリエンテーションが行われました。地下鉄のしくみやトロントの生活、お金の仕組みなど、生活していくための基礎について教えていただきました。

⑤　語学研修期間

◆　語学研修先の施設、環境について

語学学校自体は今年移転したばかりで、とても新しく、清潔感がありました。中心街、駅からとても近く、ショッピングモールからも少し遠いですが、歩ける距離にあります。基本的になんでも揃うので、とても便利な立地でした。

◆　授業内容、課題、試験

語学学校の kaplan で約２０週授業を受けました。Intensive English という文法や英会話など日常の英語を習得するための授業を主に、academic な内容を学ぶ授業も並行して受けました。前年までの先輩方は UFC という、大学できっちりと授業をこなすための厳しい授業を受けてこられたと聞いていましたが、そのコースが廃止されたので、主に話す分野を伸ばす授業を受けていました。世界中から英語を学びに多くの方がこられ、毎週生徒が入れ替わります。１０週間に１回のレベルテストを pass して１つ上のレベルに進むことができます。私は少し下のレベルからのスタートだったので、９月からの授業をこなせるレベルになるために、３週間授業を増やし、One on One 授業という先生と一対一で speaking や writing の練習ができるコースも並行して受講しました。その One on One では、自分の間違いを一つ一つ正してくださるので、とても意味のある、有意義な時間を過ごすことができました。また、UFC がなくなってしまったということもあり、writing になれるために１週間に１回は先生に writing の課題をいただき、添削していただくように心がけました。今回の留学の一番大きな目的であった speaking 力の向上のため、街にほかの国の友達とでて shopping を楽しんだり、クルーズパーティに参加したりとなるべく話す機会を増やしました。語学学校で学べてよかった点は、世界のいろいろな国に友達ができ、まったく違う文化を知ること

ができたことです。自分の視野を広げることができ、見たことのない景色に触れることができたことは自分の人生においてとてもプラスになりました。一番仲が良かった韓国人の友達とは、今年の夏に会う予定です。

⑥　正規科目履修期間

◆　大学の施設、環境について

大学の規模自体はとても小さく、生徒と教授の距離がとても近いことがマウントアリソンの魅力です。また、キャンパスの中に寮もあるので、各教室まで徒歩約５分ほどです。大学の至るところで Wi-Fi に接続可能なので、どこでもインターネットが利用でき、とにかく便利でした。学校がある Sackville という町は、とても小さく、大学と地域との関わりもとても深いです。いくつかおいしいお店もあるので、勉強の息抜きなどで新しくできた友達ともぜひ行ってみてください。

◆　履修科目

・MUSC2001 Introduction to Music

音楽の歴史や構造について分析しつつ、広く勉強します。もともとクラシックが好きで興味があったということもあり、履修しました。

・GENV1201 The Human Environment

人々の生活を取り巻く様々な環境（たとえば、Urbanization や globalization、環境問題）について実際の事例を用いながら勉強しました。個人的に一番興味深い授業となりました。

・RELG1681 The Quest for Enlightenment

東洋の宗教(ヒンドゥー教、仏教など)について、また宗教のあり方について勉強しました。常にグループディスカッションを通してほかの学生と意見を交換しながら授業が進行されます。

◆　授業、レポート、定期試験

・MUSC2001 Introduction to Music

授業は１回５０分、週３回行われます。大教室に約４０人で授業を受けます。毎回授業の中で教授の提供される曲を聴きながら、音楽の９つの要素ごとに分析していきます。先生はとてもユーモアのある方で、毎回の授業がとても楽しかったです。また、隔週でいろんな分野で音楽に携わっておられる先生によるミニ講義なども行われました。そこでは、フルートやバイオリン、ピアノなど、生演奏を聴くことができたので、めったにできない貴重な体験となりました。中間テストと期末テストが１回ずつあり、提出物は２週間に１回ほど、音楽を聴いて分析して提出、というものでした。また大きな提出物の１つとして、好きな曲を１つ選んでレポートを書く、というものでした。

・GENV1201 The Human Environment

週２回、８０分の授業でした。大講義室で、火曜日は教授のパワーポイントをもとに、木曜日は教授が出される課題を近くの生徒と一緒にディスカッションをしながら進めていく、というものでした。内容がとても身近なものだったので、理解しやすかったです。定期試験は中間、期末テストがありました。提出物は８回の Activity のなかから好きな４つを選び、提出するというものでした。約７００words 程度でのレポートが主でした。この授業は、特に教授が親切にしてくださり、分からないところがあればとにかく Office Hour に訪ねて質問する習慣が付きました。この授業を通して、もっと人を取り巻く環境に興味をもつようになりました。

・RELG1681 Quest for Enlightenment

週２回、８０分の授業です。主に東方宗教について４つの学術的観点から分析していきます。定期試験は中間、期末テストがあります。毎回の授業のために reading して先生から質問が表示されるのでそれに答えます。また授業中に近くの生徒と先生からの質問に関してディスカッションをしながら意見を交換します。その意見をもとに授業の最後に紙に答えを書いて提出する、という毎回集中して、授業中に自分の意見をしっかり固めておく必要がありました。また、サンスクリット語の単語の意味も聞かれるので少し戸惑いましたが、普段日本ではできない、西洋の宗教の視点から東洋の宗教を勉強できとても貴重な体験であり、もっと宗教に学術的に興味を深めることができました。

⑦　クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブには入りませんでした。とにかく課題をこなさなければいけなかったので。

⑧　現地での住まい

◆　語学研修期間

ホームステイをしました。到着初日にホストファミリーと対面しました。知らない国で９か月間過ごす、という不安に押しつぶされそうになっていたとき、ママに、「Feel at home!」と私が本当の家族のように過ごせるように声をかけてくれました。とても安心できましたし、感謝しています。食事に関して、アジア料理になるべく近づけてくれ、飽きないように毎日違うメニューで提供してくださり、とても私のことを考えて助けてくださったので乗り越えられたのだと今でも感じています。お風呂も好きな時間に入ることができたし、冷蔵庫にあるものは食べていいよと言ってくださったのでとても快適に過ごさせていただきました。英語力をとにかく伸ばしたい、ということをママに伝えると、常に声をかけてくださり、スピーキングの練習だといって一緒に音読する練習もしてくれました。語学学校までは家からバス、地下鉄を乗り継いで１時間１５分ほどでした。また、トロントはバスが日本に

比べてかなり充実していたので、生活に慣れてきて語学学校で友達ができるようになると夜遊びに行ったりしていました。正規科目履修期間を終え、トロントにもう一度戻った時には、数日間、ホストファミリーが部屋を用意してくださり食事まで作ってくださいました。私のことを本当の娘のようにかわいがってくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。今でも Facebook でやり取りしています。

◆　正規科目履修期間

大学の敷地内にある寮で４か月過ごしました。私は Campbell Hall というダイニングに比較的近い建物でした。ルームメイトは隣の州からの生徒さんでした。とても優しく、私のつたない英語を理解しようと耳を傾けてくれました。１日１回は必ず話すことを目標にしていたので、この４か月が speaking 力向上に大きく影響したと思います。彼女の友達もよく部屋に遊びに来ていたので輪も広がり、とても楽しかったです。そのルームメイトとは今でも SNS でつながっていますし、大好きな人の一人です。また、寮には president や social chair と呼ばれるいわばリーダー的存在の方たちが１２人ほどいます。特に president の方には文化の違いで悩んだとき、必ず親身になって相談に乗ってくれたり、International student の私たちには特に声をかけてくれていました。また寮で行われるイベントには極力参加して、文化に触れつつももっと仲良くなれるようにという意味も込めていました。だんだん参加していくうちにそのリーダーたちと一気に仲が深まり、ドラマでみていたようなとてもキラキラした学生生活を肌で感じることができました。また、大学の周りには何軒かレストランがあるので、食堂の食事に飽きたときなど頻繁に通っていました。特に韓国系レストランがあり、そこの料理が本当においしいのでぜひ行ってみてください。

⑨　長期休暇の過ごし方

私は約１か月語学学校を延長したので長期休暇はありませんでした。ただ１週間休みをいただき New York に同女の先輩と旅行にいきました。夜行バスを利用し、安く行けました。いろんなところを、地下鉄を利用しながら回りました。どこを曲がっても全然違う景色なので、何度見ても飽きません。本場のブロードウェイミュージカルを観れたことは一生の思い出です。また週末を利用してフレンチカナダと呼ばれる、ケベック州の主要都市を訪れました。まるでヨーロッパに来ているかのような雰囲気、建物が並んでいます。料理もおいしく、とても充実した３日間でした。正規科目履修期間には、１０日ほど Reading Week と呼ばれる休暇がありました。その期間を利用して再び New York を訪れました。また違った旅ができ、今回もとても充実していました。マウントアリソンには Mentorship Program というものがあり、先輩と２人１組になって活動する、というものにも参加していたのでその program の一環として Prince Edward Island に行きました。「赤毛のアン」の舞台をみた

りロブスターを食べたり、マウントアリソンに通っている生徒ならではの贅沢な旅でした。この９か月間でいろんな場所を訪れ、いろんな文化、景色に触れることができました。

⑩　留学期間中の就職活動の取り組み

この９か月はあまり特記できるようなことはしていませんが、英語力向上には大きな成果があると思います。とにかく留学生活を有意義なものにすることに精一杯でした。

Ⅱ．留学の感想

①　留学で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

まずは、世界中に友達ができたことです。日本にいてこれはなかなか難しいと思うので、行って良かったな、と思う点です。文化の共有、たまに言語を教えあうことで、さらに仲が深まりました。自分にとっても文化の習得は興味を深めるものでもあり、人生の一つの大きな糧となりました。一番仲の良かった韓国人の友達とは、正規科目履修期間終了後トロントに戻った時にご飯に行きましたし、今でも連絡を取り合っています。最も思い出に残っているのは、大学の寮での生活です。マウントアリソンの学生は、平日はしっかり集中して課題、予習をし、週末になったらそのストレスをパーティやイベントで発散する人が多いです。週末のイベントは想像をはるかに超える楽しさでした。寮にたくさん友達ができたこと、その人たちと毎日少しずつでもコミュニケーションをとれるようになってくると、さらに生活が楽しくなっていきました。また、こちらの学生は本当にメリハリのある生活を送っていたので、自分も学ばされることがたくさんありました。

②　留学中でつらかったこと、苦労したこと

到着して２日後に学校が始まったので、地下鉄に乗ることですら恐怖でした。海外に慣れていないわけではなかったのですが、いざ１人で生活するとなるととても不安で、最初の１週間時差ぼけとホームシックに襲われました。また、最初の１週間は語学学校にいる生徒のほとんどは自分からどんどん手を挙げて発言していくので、ペースについていくのに大変苦労しました。トロントでの生活に慣れてきたかと思うと５か月が経っていました。大学に移ると周りはほぼネイティブだったので、話すスピードが速いです。オリエンテーションでも何を言っているのか、はっきりとはわからず、本当に不安が募りました。授業では課題の量が日本の大学と比にならないくらい出されるので、毎日それらをこなすのに精一杯でした。テスト前などは夜中まで図書館でこもって勉強しました。正直留学はしんどいことの方が多いかもしれませんが、それらを乗り越えたとき、しんどさの何倍もの喜び、学びを得ることができたので、行ったことにまったく悔いはありませんし、むしろ行って本当に良かったと思います。

③　文化、習慣の違いで驚いたこと

まず、カナダでは買い物でレジに行ったときに How are you?と聞かれます。最初に聞かれたときには本当に驚いたし、聞かれて答えることしかできませんでした。しかし、だんだん生活していくうちに自分も聞き返すことができるようになりました。また、カナダの方々は本当に親切です。一度バスに乗り間違えて家の方向が分からなくなりきょろきょろしていると、おばあちゃんが話しかけてくれ、降りる場所や方向まで優しく教えてくださいました。マウントアリソンのある町とトロントはまったくと言っていいほど規模も違います。マウントアリソンにいたとき、街で普通に歩いていても、大体の人が知らなくても挨拶してくれます。そんな当たり前のようなことをカナダの方たちは当たり前のようにやっていて、自分も心がけようと思いました。日本で同じことをすると普通じゃないのも、窮屈な話です。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①　留学先大学の良かった点、悪かった点

マウントアリソンは規模の小さい大学として有名です。教授との距離はとても近く何か少しでも気になることがあれば質問に行けたのでとても便利でした。また自然が豊かなので勉強にストレスを感じたとき、その自然をみて癒されました。またとても静かなので勉強もしやすい環境でした。Wi-Fi 設備も充実しているのでどこでもパソコンが使えて便利です。１つ残念だったのが、周りのお店の少なさです。しかし、いろんなおしゃれなカフェがあり、何回でも行きたくなるお店が何軒かあったので、短期の私たちには十分でした。

②　日本から持って行って、特に役に立ったもの

まずは、持ち運びのできるノートパソコンです。図書館で勉強することも増えると思うので、持ち運びができるものが便利でした。また日本の文房具の性能は最強なので、特にクリアファイルを持っていかれることをお勧めします。あとは、大学で何回か大きなパーティがあります。その時のためにセミフォーマルなドレスを必ず持っていくべきです。日本米が食堂で出されるのでふりかけなどは友達にもらっていました。自分で持っていけたらな、と思ったので書いておきます。

③　語学力の向上等、留学前後で変わったこと

圧倒的に Listening、Speaking 力が伸びました。常に Listening の練習をしているようなものですし、特に大学の授業を理解するには集中力を高めて聞かないといけないので自然と耳が慣れてきました。私は Speaking 力を上げることを一番の目標としていったので、常に話しかけるようにしていました。Reading や writing も課題をやるうちに自然と伸びていったのではないかと思います。TOEIC では１５０点ほど伸びたので、やったことが成果

として表れてうれしかったです。

④　これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学は自分の人生を変える、と言っていいほど大きなものです。向こうでは英語力はもちろん、それ以外にもたくさんの人と出会い、いろんなものを吸収できる、貴重な機会となるでしょう。今迷っている人はぜひ、出願してみてください。TOEFL の点数が基準を満たさない人は勉強してみてください。ただ、留学に行ったら勝手に英語力が伸びるという考えだった私は、その考えを捨てておけばもう少し英語力の面で伸ばせたのでは、と思うので、留学が決定されてからもしっかり勉強は続けてください。

Ⅳ．将来の目標

①　今後の進路、将来の目標、夢

もともと航空会社に勤務したくて留学したので、今でもその夢は変わっていません。しかし、この留学でもっと視野が広がったので、英語を使った、いろんな職業に目を向けていきたいです。

Ⅴ．写真

Christmas Banquet の時に寮のみんなと撮った写真です。食堂に学生皆で集まって、寮ごとに座って食事をしました。

寮の先輩に隣町でやっていたイルミネーションパレードに連れて行ってもらった時の写真です。極寒の中、とてもきらびやかでにぎやかでした！